

③ 六地区コミュニティ実態調査

1 一六地区コミュニティ実態調査の内容

コミュニティ施策を考えるにあたって、地域コミュニティの実態、課題を把握することは第一義的に必要な作業であるが、三百三十万人にものぼる巨大都市における地域コミュニティの実態は、極めて多様な様相を示している。六地区は、既成市街地、郊外区、開発時期の新旧など横浜の典型的な特性を現していると思われる地区を選んだが、区役所の協力体制の得られるところ、また、地域に関する調査の蓄積があるところなどの条件も考慮した。地区の範囲は、地区センターの日常利用圏（人口は四〇五万人）とした。見直し21プランの計画上、この範囲にこどもログハウス、在宅支援サービスセンターが整備されることとなっていたからである。調査項目は、

- ① その地域にはどのような課題があるのか。
- ② また、どのような活動があり、活動の課題は何か。
- ③ どのような地域施設があり、地域住民にどう利用されているのか。そして、地域住民はどのような地域施設を求めているのか。
- ④ 地域活動の相互関係、地域活動と行政との関係はどうか。

2 調査方法

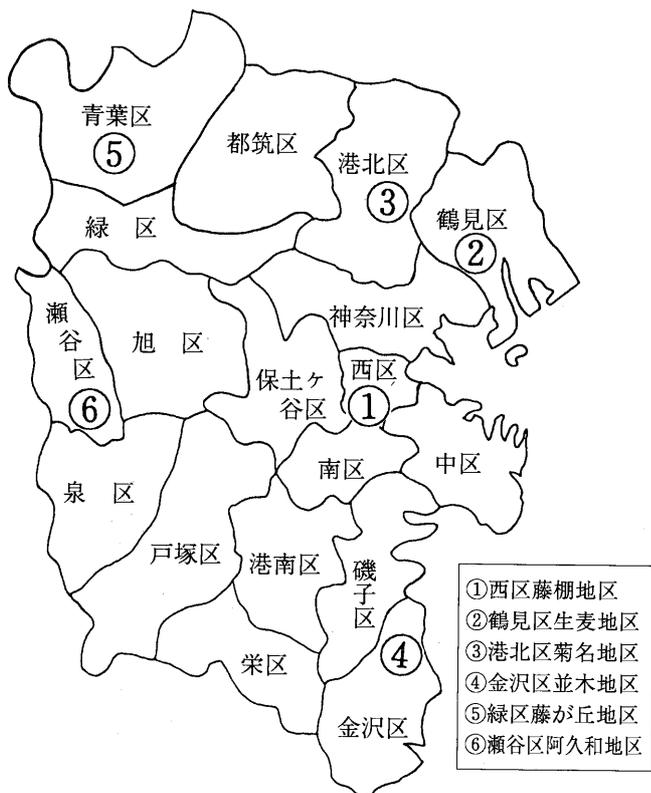
これらの項目を、区役所の職員、各地区の地域活動のリーダー、地域施設の運営にかかわっているスタッフ等にヒアリングした。調査目的は、できる限り、地域の在り様があるがままに把握することであるが、コミュニティ施策の在り方を考える必要上、①地域施設ニーズ、②地域活動グループの相互関係、行政と地域活動グループとの関わり等地域コミュニティの構造的な把握の二点に重点を置いた。

地区への入り方は、まず、区役所の区政推進課、市民課、福祉課、建築課、保健所（いずれも調査当時）などの各セクションから地域の特性、課題、主な活動グループなどをヒアリングし、順次対象をつないでいき、ほぼ一地区二十グループのヒアリングを行った。自治会・町内会の活動、自主的な活動グループの双方をヒアリング対象に選ぶことは決めてあったが、それ以外については、かなり任意である。

また調査時期は平成四年、五年にわたっており、区役所等の機構名は調査時点の名称とした。

地域の総合的な実態把握とその表現は、極めて難しく、密度と客観性において、課題は尽きない。区役所行政の機能強化の道筋の中で、区役所自らが地域の実態把握の手法を開拓し、施策立案の基礎的仕事として取り組める体勢が実現することを期待したい。

調査対象地区の位置（行政区再編後）



6地区の概要

地区名 (調査時点)	地区類型	地区内の 鉄道駅	地区に含まれる主 な町名	連合町内会・ 自治会 町内会	※人口・世帯等 (上段S63/下段H4)		土地利用特性 (市街地の類型)	地区の形成過程 (DIDDの変遷)	施設(日4点セット) の整備状況 <町内会館整備率>
					人口	世帯数			
西区 (平成4年8~11月)	都心	相鉄線 西横浜 京急線 戸部 日ノ出町	藤棚、伊勢 西戸部 中央 浜松、久保 境之谷、赤門 霧ヶ丘、栗ヶ丘	3連町 第二地区 第三地区 第四地区 56自治会	人 43,633 43,855 増減率 (0.5%)	世帯 16,592 18,940 増減率 (14.2%)	・大規模公園と墓地を除くと、概 ね住居系 ・久保→丘陵地の住宅地と墓地 ・西戸部・野毛→丘陵地の住宅地 動物園を控える ・中央→国道1号沿いの住居系在 ・藤棚→谷筋の古い商店街	・地区の全域が昭和40年以前にす でにDIDDとなっている ・西区全体では昭和40年以前から の居住者(60%を占める)が多 い ・高齢化の進行と世帯数の増加	(地区内) ・西前/学校コミュニティ・スクー ル 境之谷こどもログハウス (地区周辺) ・野毛地区センター ・西地区センター <56.8%>
鶴見区	副都心	京急線 生麦 鶴見 花月園前	生麦、鶴見 鶴見中央 東寺尾3、4 岸谷	3連町 ・生麦一 ・生麦二 ・鶴見中央 27町内会	人 46,387 51,052 増減率 (10.1%)	世帯 19,577 23,623 増減率 (20.7%)	・JR東海道線の北側の寺尾、岸 谷は住居系 ・JR東海道線の南側の生麦は住 居系、工業系にわかれ、第一京 浜沿いは住居系 ・JR鶴見線の東側の鶴見中央は 商業・業務、住居系在	・地区の全域が昭和40年以前にす でにDIDDとなっている ・高度成長期以前にまちが形成さ れているが、古い住民とともに 新住民も多い(区全体では平成 2年以降の居住者が26%を占める) ・人口、世帯数ともに急増	(地区内) ・生麦地区センター <84.3%>
港北区	既成市街 地	東横線 大倉山 JR横浜線 新横浜	菊名 師岡 大尾 大豆戸 新横浜	3連町 ・菊名 ・師岡 ・大尾 30町内会	人 48,240 51,280 増減率 (6.3%)	世帯 19,945 21,747 増減率 (9.0%)	・住居系が多くを占める ・環状2号線、東横線の交差点部、 大豆戸の中心部は工業系 ・大豆戸は住居系在 ・鶴見街道沿い、大倉山駅、菊名 駅周辺は商業系 ・新横浜周辺は業務系 ・斜面緑地が残る	・東海道線、東急東横線沿線は昭 和40年以前にDIDDとなり、早 くからまちが形成されているが その後40~45年、50~55年(大 規模なマンション開発)と開発 の時期が異なるエリアが含まれ ている ・人口・世帯数ともに増加	(地区内) ・菊名地区センター (地区周辺) ・綱島こどもログハウス <56.7%>
金沢区	郊外 大規模団 地	金沢シーサイ ドライン 並木中央 並木北 幸浦 鳥浜	並木 富岡東	2連町 ・富岡第二 地区 ・金沢シーサイ ドタウン連合 56町内会	(並木地区) 人 29,461 29,207 増減率 (-0.9%)	世帯 8,400 8,927 増減率 (6.3%)	・並木地区は全域住居系 ・石油ターミナル、大規模公園等 を除くと概ね住居系土地利用	・並木地区は、昭和50年代に大規 模団地が開発された地区であり 同じ時期に一季に居住が開始さ れた地区である ・昭和55~60年にDIDD ・人口は微減、世帯数は増加	(地区内) ・並木在宅支援サービスセンター ・富岡八幡こどもログハウス ・並木第三小学校コミュニティ・ スクール <69.7%>
緑区	郊外 計画的戸 建住宅地	田園都市 線 藤が丘 青葉台	藤が丘 みたけ台 もえぎ野 千草台 上谷本 下谷本等	2連町 ・上谷本 ・谷本 9町内会	人 60,058 62,047 増減率 (3.3%)	世帯 22,997 24,804 増減率 (7.9%)	・概ね、住居系土地利用 ・藤が丘、青葉台駅周辺は商業 ・業務系土地利用 ・地区北側は、調整区域	・40年代前半に区画整理事業の換 地処分が行われ、40年代後半か ら、居住が開始された ・DIDDは40~45年、45~50年、 50~55年のエリアを含む ・人口・世帯数ともに増加	(地区内) ・藤が丘地区センター ・さつきが丘小学校コミュニ ティ・スクール <44.4%>
瀬谷区	郊外 農住混在 住宅地	相鉄線 三ツ境	三ツ境 宮沢町 阿久和	4連町 ・阿久和南 ・阿久和北 ・三ツ境 ・宮沢 56町内会	人 39,310 41,536 増減率 (5.7%)	世帯 12,358 14,239 増減率 (15.2%)	・概ね、住居系土地利用 ・三ツ境→商店街のある新興住宅 地 ・宮沢町→農家が多数 ・阿久和北→新旧混在住宅地 ・阿久和南→はば市街化区域 の一部、調整区域を含む	・主に昭和40年代からの居住者が 多い(瀬谷区全体で約30%、全 市平均17%) ・DIDDは、三ツ境駅周辺から昭 和40年以前、~45年、~50年、 ~55年、~60年と順次進行 ・人口増加、世帯数急増	(地区内) ・二ツ橋在宅支援サービスセン ター (その他の施設) ・長屋門公園 <38.0%>

※人口・世帯は日常利用圏に半分以上含まれている町丁の合計である。